

残暑お見舞い申し上げます。

ことのほか暑い夏ですが、お元気にお過ごし下さい。

2016年 夏 日本共産党 大洲市委員会



71周年の終戦記念日にあたって

日本共産党書記局長 小池 晃

一、戦後71回目の終戦記念日にあたり、日本共産党は、日本軍国主義がおしすすめた侵略戦争と植民地支配の犠牲となった、内外の人々に、深い哀悼の意を表します。そして、戦争の惨禍、おびたしい犠牲と悲惨な体験をへて、日本国民が手にした憲法9条を守り抜き、憲法を生かした平和日本を築くために全力をあげる決意をあらたにします。

一、安倍政権は、憲法の平和主義を根底から覆す暴走を続けています。集団的自衛権行使を容認する閣議決定を行い、安保法制＝戦争法を強行するなど、日本を再び「海外で戦争をする国」に変質させようとしています。さらに、安倍政権は、明文改憲への執念を露骨にしています。先の参議院選挙では、「憲法隠し」に終始しながら、選挙がおわったとたん、自民党改憲案をベースに3分の2を「政治の技術」で構築していくと表明しました。9条2項を削除し、「国防軍」創設を明記し、海外での武力行使を無条件、無限定に可能とすることに安倍改憲の本丸があります。

日本共産党は、安倍改憲を許さず、憲法の平和主義を守り、生かすために、恒久平和を希求するすべてのみなさんが、政治的な立場や思想・信条の違いを超えて、力を合わせることを心から呼びかけます。

一、安保法制＝戦争法にもとづいて、南スーダンに派遣されている自衛隊の任務拡大と武器使用拡大が行われようとしています。しかし、7月に入り、南スーダンの首都ジュバで大統領派と副大統領派の激しい戦闘が勃発し、自衛隊の宿営地内で複数の弾痕が確認されるなど、南スーダンが「殺し、殺される」初めてのケースになる危険が切迫しています。安保法制＝戦争法の発動を許さず、その廃止をもとめる世論と運動を大きく広げようではありませんか。

一、日本の自衛隊は、他国と武力を交えず、一人の戦死者も出さずにきました。戦後71周年の終戦記念日にあたり、戦後築き上げてきた、この財産を、今後も継承し、再び戦争をする国への道を絶対に許さないために、国民のみなさんとともに全力をあげます。

伊方再稼働 安全置き去り

再稼働に反対する国民多数の声を押し切って四国電力は12日、伊方原発3号機（愛媛県伊方町）を再稼働させました。伊方原発は国内最大級の活断層「中央構造線」から6～8キロと至近にあり、再稼働は無謀だと指摘する専門家は少なくありません。また、3号機は、ウラン・プルトニウム混合酸化物（MOX）を使うプルサーマル運転です。原子炉の制御棒の利きが悪くなるなどの安全上の問題だけでなく、使用済みMOX燃料の処理方法は一つ決まっておらず、それを増やし続けるのは無責任というほかありません。原発に固執し再稼働を推進する安倍政権の責任は重大です。

大洲市議会の議員定数について議論されています。

議会で議員の定数が議論されています。現在の定数は、22です。前回の市会議員選挙の際、2名削減されました。その結果として旧大洲市以外の周辺地域の議員が減りました。

国は、周辺地域の維持のために、合併10年後の交付税の減額を6割程度に抑えました。西条市でも定数削減について「人口に対して議員が多い。」「少数精鋭でやるべき。」など削減が提案されましたが、「市の一体感が醸成できていない」と賛成10、反対17で否決されました。また、八幡浜市では、現職議員から、「定数を減らしすぎた。」「委員会も2つ掛け持ちしている。」「定数を増やそうかという動きもある。」などいわれています。

この間、むだむだとサービスを削減して、貯金が30億円までになりました。議員は、地域の声を市政に届け、提案し、市政のあり方を監視する役割もあります。むだむだと削れば、地域の声は届かず、ますます反映しにくくなります。皆さんはどう思われますか。

9月議会が開かれます。

今度の9月議会は、例年より早く開催されます。国体のプレソフトボール大会が開催されることがその理由です。

初日	8月30日
一般質問	9月5日～7日
常任委員会	9月8日、9日
最終日	9月13日

皆さんの声やご要望およせください。

